



読書界 7月号

テーマ「ミステリーな話」

『探偵ガリレオ』 東野圭吾 文藝春秋

ある夜、一人の若者の頭から炎が上がった。彼は全身を炎に包まれ、焼死した。—— 警視庁捜査一課の草薙俊平が帝都大学理工学部の湯川という人物を訪れたのは、それから三日後のことだった。要件は勿論、あの怪事件についてだ。

草薙は湯川にあの怪事件のことについて話した。すると、湯川は、

「……マッチ棒みたいに…頭だけが先に……燃える……」と低く唸った。

湯川は持ち前の科学知識と考察でこの怪事件を解決へと導いていく。

理系も読みたくなる科学ミステリー。あなたは犯人の衝撃の手口を知るまで、本を閉じることは出来ないだろう。

1-8 松村治和

『満願』の「死人宿」 米沢穂信 新潮社

元恋人の佐和子はひどいバワハラを受けていた。2年前に姿を消した彼女の居場所を知った主人公は、彼女が働いているという温泉宿に急遽行くことにした。しかしその温泉宿はある意味有名だった——『死人宿』として。周辺から発生する有毒ガスでの自殺を試みる人が多かったためだ。主人公が宿に泊まる前日、脱衣所で遺書が見つかった。主人公の他には3人の客が泊まっている。果たして誰が自殺希望者なのか。結末に思わず唸る一作。

2-6 田辺よしの

『楽園のカンヴァス』 原田マハ 新潮社

19世紀から20世紀にかけてのフランスで、貧しいながらも絵を描いた画家、アンリ・ルソー。日曜画家と揶揄され続け、今なお評価が定まっていない彼の最期の作品、「夢」。それに酷似する作品が突如、二人の研究者の前に現れた。その真贋を探るべく、彼らはルソーという芸術家をより深く知っていく。謎の多い晩年の作品に込められた永遠に残る情熱のありようとは…

実在した画家のお話です。様々な作品が登場するので、読み終わった後に調べてみると一層楽しめると思います。

3-5 小林利彰

『ノースライト』 横山秀夫 新潮社

「すべてお任せします。あなた自身が住みたい家を建ててください。」 建築家の青瀬の前に現れた施主の依頼は、たった、それだけ。コンクリート住宅を得意としてきた青瀬が、なぜ木の温もりに溢れる家を建てたのか。評価され話題になったその家から、なぜ施主は忽然と消えたのか。施主の消えた家に残されたブルーノ・タウトと関係がありそうな椅子は、本物なのか、何を意味するのか。

浅間山を臨む美しい景色、専門誌に掲載されるほど美しい家、なかなか交わることのない美しい家族愛。「横山ミステリー史上 最も美しい謎」という帯の惹句は本物か、ぜひご自身でお試しあれ。

ミスターX